

（件名） 稚内北星学園大学とサハリン国立総合大学によるオンライン交流の実施について

（1）オンラインによる学生交流について

2月13日、宗谷総合振興局主催により、稚内北星学園大学の学生（5名）とサハリン国立総合大学の学生（7名）とのオンライン交流が実施されました。

本事業は、宗谷総合振興局が2019年度から実施しており、昨年度は北海道の学生達がサハリン州を訪問し、サハリン国立総合大学の学生と交流を行いました。今年度、サハリン国立総合大学の学生が稚内市を訪れ、稚内北星学園大学の学生たちと交流を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により訪問することができなくなったため、オンラインでの交流を実施することとなりました。

（2）オンラインによる学生交流の内容について

オンライン交流では、最初に両大学の参加者の紹介（氏名、趣味等）が日本語で行われました。稚内北星学園大学からの参加者の中には、2019年にサハリン州を訪問した学生もおり、それを知ったサハリン国立総合大学の学生達が嬉しそうな表情を浮かべていたのが印象的でした。

参加者の紹介の後、最初に稚内北星学園大学の学生によるプレゼンテーション、続いてサハリン国立総合大学によるプレゼンテーションが行われ、新型コロナウイルス感染症が収束した後の相互訪問を念頭に、それぞれが大学やおすすめの観光地等について写真等を駆使し紹介していました。

プレゼンテーション終了後は、「若者で考える北海道とサハリン州の未来図」をテーマに両大学の学生1名から2名が代表して交互に意見を述べるという形式で意見交換が行われました。

また、サハリン国立総合大学の学生からは稚内北星学園大学の学生に対し、趣味や好きな食べ物など、様々な質問が行われ、稚内北星学園大学の学生も楽しそうに答える等、お互いをより深く知るために活発な質疑応答が行われました。

（3）本事業におけるサハリン事務所の役割について

当事務所では、主催者である宗谷総合振興局と連携し、学生同士がオンラインという不慣れた環境の中でも積極的に意見交換を行う方法等について、サハリン国立総合大学と何度も調整を行いました。

オンライン交流終了後、サハリン国立総合大学の教員からは、「オンライン交流でも積極的に意見交換を行うことができた。」「学生たちも楽しそうだった。次回は是非、2019年の時のように対面で交流を行いたい。新型コロナウイルス感染症の早期収束を願っている」等、来年度の交流に向けた期待が寄せられました。

新型コロナウイルス感染症の収束後を見据え、当事務所としても両地域の人的交流がさらに促進されるような取組を引き続き支援してまいります。



自己紹介の様子



意見交換の様子